

身近な装具のチェックシート

氏名 _____ 殿 (男・女) _____ 歳

麻痺があって体が不自由な方は下肢装具を着用することで、立つことが出来るようになったり、歩行が安定したりします。装具は体の一部として常に気にかけて生活する必要があります。もし体に合っていない、傷んできているなどがありましたら早めの再作製をお勧めします。

****なぜ装具が必要なのでしょう？****

- ①変形の矯正・予防 ②体重の支持 ③(麻痺などによる)機能低下の代償 ④異常な運動に対する固定

●下肢装具のチェックポイントとは？

ポイント	図イメージ	説明
① <input type="checkbox"/> 装具の中で足の裏がきちんとつき、踵がおさまっている。		ベルトはきちんと締まっていますか？正しい装具の履き方をしないと踵が浮くことがあります。足裏がついていなかったり、踵が浮いていると、足の変形が進んだり、歩行が不安定になります。また、傷や痛みの原因になります。
② <input type="checkbox"/> 立位、歩行時に装具がきちんと床面に着いている。(靴や足部の底がすり減っていない。)		床面にきちんと着いていないと正しい体重支持や体重移動が行えず、転倒の危険を招きます。また靴や足部の底がすり減ると、バランスが悪くなり、体重がうまくかけられなくなったり、正しい歩行ができなくなります。滑りやすくなり転倒の危険性もあります。
③ <input type="checkbox"/> マジックベルトがしっかりくっついている。(切れたりほつれたりしていない)		マジックベルトが切れたり、ゴミが溜まっていると、しっかり接着せず、装具の正しい装着や矯正が十分に行えません。また、装具の中で、足が動いたり、踵が浮く原因にもなります。
④ <input type="checkbox"/> プラスチックが白く変色したり、ヒビが入っていない。		プラスチック変色やヒビは、使用中に体重を支えきれず、破損にいたる恐れがあります。(転倒やけがの原因になります。)
⑤ <input type="checkbox"/> ふくらはぎ、足首、足の部分がきつくない。		きつすぎると、プラスチックの縁、支柱等の金属のあたりが足にくい込んだり、圧迫によって血行障害を起こしたりします。またゆるすぎると、装具の中で足が動き、傷や痛みのトラブルになります。
⑥ <input type="checkbox"/> 使用中に痛みがなく、装具を脱いだときに赤みや傷がない。		使用中の痛みは装具が合っていないかったり、皮膚に過剰な圧迫がかかっている可能性があります。感覚障害の方は痛みが気づきにくいことがあります。装具を脱いで確認することが大切です。
⑦ <input type="checkbox"/> 足関節の種類を見てください。		足の部分とふくらはぎの部分が1枚のプラスチックで作製されているものは「固定式」といい、足首の部分が動くものを「遊動式」といいます。活動的で立ち座りを頻繁に行うような方は「遊動式」が適している場合もあります。